

金曜の会報告

期 日 2020年1月24日

場 所 倉敷労働会館

参加者 5名 (O、TA、AK、AR、YO)

内 容

解釈『初雪のふる日』(AR)

版画『自画像』(AK)

2段落の「飛びこんでみました」で何を確かめたのか。5段落の「こんなに長い石けり、だれがかいたんだろう。」という疑問が、「なあんて長い石けり。」からずっと続いていたと考えたのですが。無理があったようです。5段落の疑問は、あくまでその直前の、「まだまだ続いていたのです。」を受けてのもの。予想外の長さだった(確かめ終わり)ことによる。飛び込んでみたのは「なあんて、長い石けり」をきっかけにしているので、長さ確かめようとしたと考えるほうが自然です。

AK 学級の版画には、丁寧な作業ぶりが表れていました。あとは、「光を入れることによって、形や膨らみをどのように浮かび上がらせるか」です。また、大事な線に向かって彫ると線が切れてしまうので、大事な線に刃を当ててから彫ることも確認しました。

まとめ

- ・文学教材は狭い範囲で因果関係をおさえていく。
- ・版画は、大事な線に刃を当ててから彫る。

文責 (AR)

約1ヶ月ぶりの会でしたが、初雪の解釈は興味深いものでした。後ろの『だれが』は、明らかにありえない前内容を受けての『だれが』と考え、前の『だれが』とははっきり違うことが分かりました。また、AK先生の『自画像』からは子どもたちがのめり込んでいる様子が伝わってきました。子どもが集中して彫ると、集中した彫りの線が現れます。AK先生の熱意や探求心と子どもたちが作品作りを楽しむ実践だなと思いました。金曜日の会に参加して、自分が慌ただしさの中で日々の授業を何となくこなし実践から離れていたことを、改めて思いました。参加して、呼び戻していただいたような感覚です。また、一歩ずつ教材や授業と向き合っていきたいと思います。来週も、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

文責 (YO)